

川崎市臨海部におけるメガソーラー発電の設置計画について
～ 2 地点の合計出力が約 2 万 kW となる国内最大級の太陽光発電所を建設～

平成 20 年 10 月 20 日
川 崎 市
東京電力株式会社

川崎市（川崎市長：^{あべたかお}阿部孝夫）と東京電力株式会社（取締役社長：^{しみずまさたか}清水正孝）は、本日、神奈川県川崎市の浮島、扇島地点において、合計出力約 2 万 kW の太陽光発電所を建設するメガソーラー計画を共同で進めていくことについて合意いたしました。

本計画は、平成 23 年度の運転開始を目指し、川崎市と東京電力が共同で進めていくもので、川崎市は、太陽光発電所の一部土地の提供をはじめ、本計画を通じた太陽光発電の普及啓発活動を推進し、東京電力は、電力供給設備としての太陽光発電所の建設・運転を担います。具体的な計画内容は以下のとおりです。

浮島太陽光発電所（仮称）

川崎市が所有する浮島 1 期廃棄物埋立処分地における、出力約 7,000kW の太陽光発電所

扇島太陽光発電所（仮称）

東京電力が所有する土地における、出力約 13,000kW の太陽光発電所

太陽光発電等 P R 施設（仮称）

川崎市が浮島処理センター内で運営する、川崎市民の皆さまをはじめ、広く社会の皆さまへ太陽光発電等の普及啓発活動を行うための P R 施設

上記 2 発電所の合計出力約 2 万 kW は、太陽光発電所としては国内最大級となり、年間の発電電力量は一般家庭約 5,900 軒分の年間使用電力量に相当する約 2,100 万 kWh を見込んでおります。なお、これによる CO₂ 排出量削減効果は年間約 8,900 t となる見込みです。

川崎市では、現在、「カーボン・チャレンジ川崎エコ戦略」として地球温暖化対策を進めており、公共施設への太陽光発電設備の設置や住宅用太陽光発電設備の設置補助など、低炭素社会の実現に向け、先導的な役割を担うべく取り組んでおります。

このたびの計画を大きな契機といたしまして、太陽光発電をはじめとした新エネルギーの導入や普及啓発、実証等の取り組みを、これまで以上に強化いたします。

この取り組みとともに、「環境、福祉、医療、健康」などの分野の高度な先端技術や研究開発機能の集積などにより、地球規模で人々の幸福に寄与する世界の拠点となることを目指してまいります。

東京電力では、太陽光発電について、従来より自社設備としての設置や太陽光発電を活用したエネルギーサービスの提供、環境性等を評価した価格での余剰電力の購入、グリーン電力基金を通じた導入支援、といった様々な取り組みを通して普及を支援してまいりましたが、このたびの取り組みは、電力供給設備として当社初のメガソーラー発電の設置計画となります。

今後も引き続き低炭素社会の実現に向けた、非化石エネルギー比率の向上を目的として、再生可能エネルギーの利用拡大および太陽光発電の更なる普及拡大を目指してまいります。

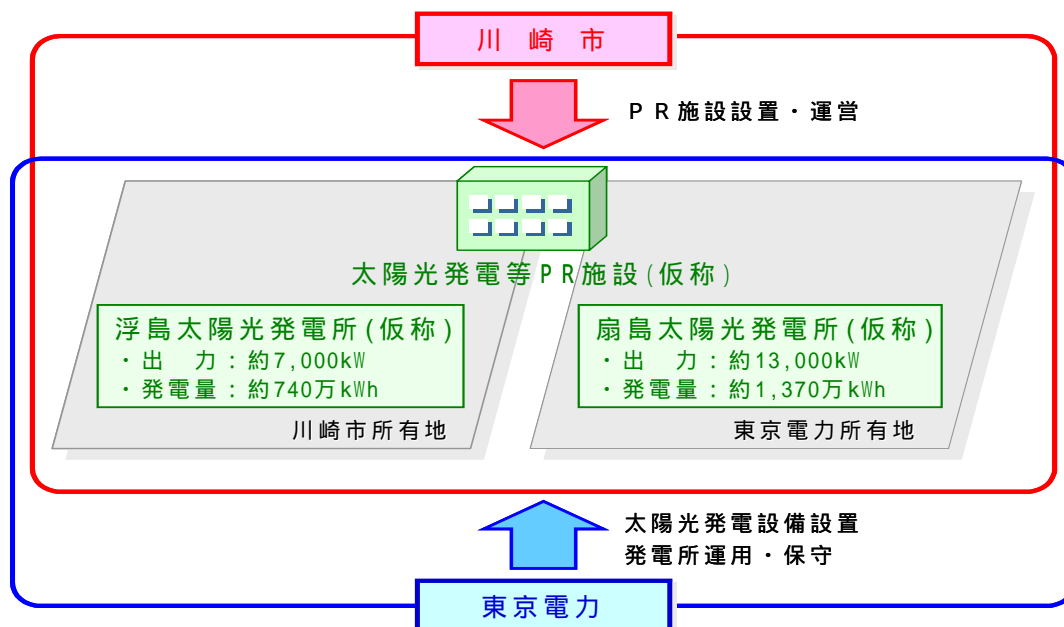
以 上

本発表内容に関するお問い合わせ先

川崎市 総合企画局臨海部活性化推進室	044-200-2414 (直通)
環境局地球環境推進室	044-200-3107 (直通)
東京電力株式会社 広報部 報道グループ	03-6373-1111 (代表)

川崎市臨海部におけるメガソーラー発電の設置計画の概要

1. 計画概要



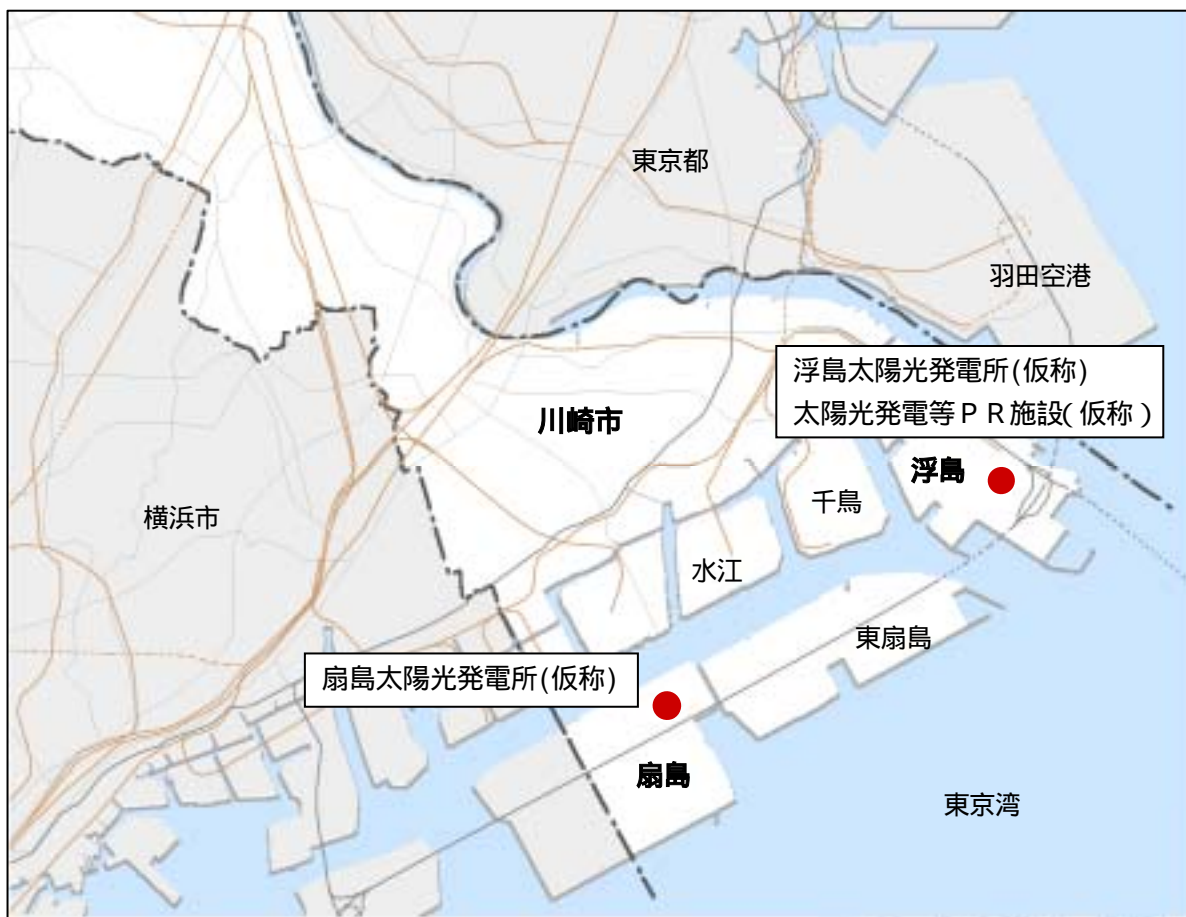
2. 太陽光発電設備の概要

発電所名		浮島太陽光発電所（仮称）	扇島太陽光発電所（仮称）
所在地		神奈川県川崎市 川崎市浮島町	神奈川県川崎市 川崎市扇島
発電所諸元	太陽電池出力	約 7,000kW	約 13,000kW
	推定発電 電力量（年間）	約 740 万 kWh	約 1,370 万 kWh
	CO ₂ 排出 削減量（推定）	約 3,100t	約 5,800t
	敷地面積	約 11 ha（川崎市所有）	約 23 ha（東京電力所有）
	太陽光パネル 設置面積	約 10ha	約 20ha
工程	工事着工	平成 21 年度（予定）	平成 21 年度（予定）
	運転開始	平成 23 年度（予定）	平成 23 年度（予定）

3 . P R 施設の概要

施設名	太陽光発電等 P R 施設 (仮称)
管理者	川崎市
所在地	神奈川県川崎市川崎区浮島町 (浮島処理センター内)
開館	平成 23 年度 (予定)
概要	浮島処理センター内の生活環境学習室を改修して運営する、太陽光発電等に関する普及啓発および体験設備を備えた P R 施設

4 . 位置図



5 . 完成予想図

浮島太陽光発電所（仮称）



扇島太陽光発電所（仮称）



以上